

じょうさい smile

城西中学校だより
令和8年2月25日
校長 家永 裕行

送信前に考えて（全校朝会の話2月17日）

おはようございます。本日は、皆さんに二つのお話をします。

一つ目は、SNSの使い方についてです。最近、LINEやInstagramなどを通じたトラブルが増えています。SNSは便利な反面、使い方を誤ると、相手を傷つけたり自分を困らせたりすることがあります。「デジタルタトゥー」という言葉を知っていますか。SNSに投稿した言葉や写真は、一度拡散されてしまうと、完全に消すことは非常に難しいです。タイムラインで消えると思っても、スクリーンショットなどで情報が残ることもあります。「むかつく」「きもい」などの言葉や、友人の写真を送る前に、それが本当に必要なことか、一度立ち止まって考えてみてください。その言葉を、相手の目を見て直接伝えられるかどうか、一つの判断基準になるかもしれません。お互いが不快な思いをしないよう、思いやりをもって、送信ボタンを押す前に考える習慣を大切にしましょう。

二つ目は、季節の話題です。「一月往ぬる、二月逃げる、三月去る」と言われるように、この時期はあっという間に過ぎていきます。3年生の登校日は、県立一般入試を除けば残り10日（今日の時点ではあと5日）。1年生、2年生も修了式まであと23日です（今日の時点では、1年生は卒業式の日自宅学習のためあと17日、2年生はあと18日）。年の初めに立てた目標に向けて順調な人は、その調子で。思うように進んでいない人も、まだ間に合います。気持ちを切り替えて、今年度の締めくくりを大切にしましょう。

3年生の皆さん、県立一般入試まであと少し。これまでの努力を信じて、最後まで頑張ってください。皆さんの健闘を心から応援しています。

プロ選手が語る 夢と努力の大切さ（2年生特別授業）

1月19日、「サガン鳥栖『夢』先生」（市スポーツ振興課主催）が本校で行われ、2年生が体育館で現役選手のお話を聞きました。この取り組みは、子どもたちが自ら考え、意欲や成長につながる姿勢を育むことを目的に、



体育館で話を聞きました



夢について語る内山圭選手

サガン鳥栖の選手が中学校を訪問し、夢や目標を持つことの大切さを伝えるものです。

今回は内山圭選手と池田季礼選手のお二人が来校されました。内山選手は「夢は言い続けることで叶う」と語り、言葉にすることで自分を前に進める力になると話されました。池田選手はユース時代の監督からの「こつこつやることがうまくなるこつ」という言葉を紹介し、日々の積み重ねがプロへの道につながったと振り返りました。現在は「より多くの試合に出場したい」という新たな目標に向かって努力を続けているとのことでした。

質疑応答では、生徒から「プレッシャーにどう打ち勝つか」という質問が出ました。内山選手は「げんかつ（げんかつ）げんかつのルーティンを持つことで心を整えている」と答え、池田選手はいいときのゴールシーンを見返し、自信を高めて試合に臨んでいると話されました。

プロ選手の言葉は、生徒たちにとって大きな刺激となりました。夢を語り、努力を続けること、自分を信じること。その大切さを改めて感じる時間となりました。今回の学びをこれからの学校生活や将来の目標づくりに生かしてほしいと思います。

【生徒感想】◇「夢」という言葉を聞くと壮大で自分の夢がいまいちわかっていなかったけど、今回の講話を聞いて、目標でもいいし、身近な所からでいいと言われてとても印象的でした。

◇今回、サガン鳥栖の選手の方々に来ていただき、プロになるまでの道のりや思いを聞いて自分もこれは覚えていようと思ったのが「コツコツは上手くいくコツ」です。これから受験のために勉強を頑張る毎日になるけど、今回の講話を思い出し、この勉強がためになると思いながら日々がんばろうと思いました。

城西中トピックス

1. 先輩に学ぶ（私立高校編）

1月22日、本校の卒業生で、現在佐賀市内の私立高校に通う先輩に来校いただき、高校生活や学校の特色についてお話ししていただきました。直接話を聞くことで、各高校の特徴を知り、進路への意識を高め、目的意識をもって中学校生活を送ることをねらいとして実施しました。



話を聞いたのは中学2年生、話をしてくれたのは高校2年生で、3年後の自分の姿を重ねてイメージした生徒もいたようです。また、この「先輩に学ぶ」の実行委員を2年生から選出し、司会や誘導などの運営も行いました。【生徒感想】◇自分が高校を決めるときには今日話してもらったことを参考に、自分の将来の夢に向かって頑張りたいと思いました。◇文化祭や修学旅行なども満喫できそうで楽しそうだったし、学科に個性があるので、自分の得意なことを生かし、資格などを取れるのがすごくいいと思いました。

2. 人権集会

1月29日、人権について考える集会をリモートで行いました。今回の担当は2年生で、実行委員が「もしスポーツから音がなくなったら成り立つでしょうか」と問いかけ、クイズを交えながらデフリンピックの魅力を紹介しました。学習を通して、人権を大切にすることは、①「できない」と決めつけないこと、②誰もが力を発揮できる場があること、③一人ひとりの違いを認め合い尊重することだという考えに触れ、理解を深めるきっかけになりました。【生徒感想】◇デフリンピック東京大会の映像では、オリンピックと同じように見えたけれど、笛の代わりに旗、光を使っていて、工夫されていると思いました。（1年生）◇みんなが楽しめるようにルールや決まりを工夫すればいいことが知れました。音がないと困ることがたくさんあって、スポーツをするのが難しいと思っていたけど、みんなが活躍できる場面があるとわかりました。（3年生）

3. マナー検定（1年生）

2月16日、17日にマナー検定を実施しました。マナー検定は、自分を適切に紹介する力を養い、良好な人間関係や社会でのマナーの大切さを学ぶこと等を目的にしています。生徒は「学校とは何をする場所か」「そのために頑張っていることは何か」等について、緊張しながらも真剣に答えていました。「学校は、他者との関わりの中で学び合う場です。そのために、授業中にわからないことがあれば、できるだけクラスメートに質問して理解を深めるようにしています」といった発言が見られました。

4. キミの進路を、発見しよう（1年生特別授業）

2月19日、「キミノミチ発見ラボ」（佐賀県主催）が本校で行われ、1年生が、幼魚水族館館長でタレントとしてもご活躍中の鈴木香里武さんのお話を聞きました。「今やっていることの延長に未来があるという意識で、今の自分が持っているモノに自信をもって、それを大切に育みましょう」等のメッセージを届けていただきました。

